

皮 革 （ 1 次 製 品 ）

《アピールポイント(特色)》

- ・ 弥生時代後期に大陸からの帰化人が鞣製技術を伝え、その基礎を築く
- ・ 全国1位の出荷額を誇る
- ・ 例年11月に、ひょうご皮革総合フェアをたつの市皮革まつりと合同開催

《歴史・沿革》

兵庫県における製革業の歴史は極めて古く、弥生時代後期に大陸からの帰化人が鞣製技術を伝え、その基礎を築いたとみられている。その後、江戸時代中期に全国的な商品経済の発達と姫路藩の重商政策のもとに大きく発展した。

当時、既に地域的な分業が行われており、鞣製部門は市川流域をはじめ西の揖保川流域及び東の猪名川流域に沿った地域に発達し、加工部門は姫路城下町の中二階町から東二階町にかけて展開していた。また、原皮は大坂商人を通じて調達され、大地主のもとで村民による賃加工が行われていた。

明治期になって近代的鞣製法が取り入れられ、大正期に軍需専門化が行われ、急速に企業化が進んだ。

戦後は強制的な軍需専門化は分裂し、小規模民需産業として再出発した。業界は、昭和26～38年の間に著しい成長を遂げ、昭和40年代の後半に入り、経営の合理化や設備の近代化を進展させた。

現在、姫路市の高木・御着・網干、たつの市の松原・誉田・沢田及び太子町などが主な産地になっている。企業数、出荷額では全国の2分の1以上を占め、特に成牛革の生産量は約7割のシェアを誇っている。

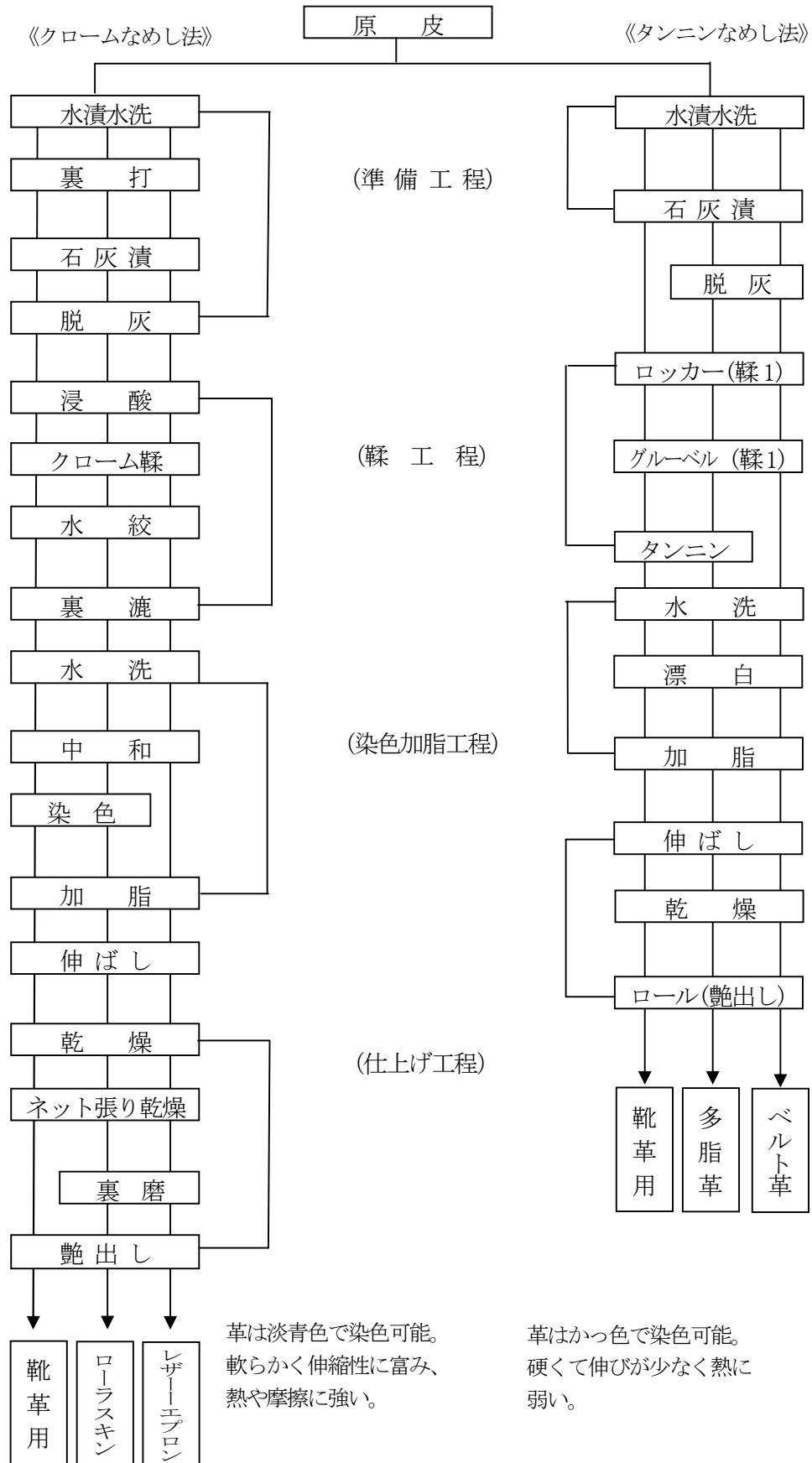
《現在の取組》

- ・ 国内最大級のマテリアル展示会である東京レザーフェアへの出展
- ・ 兵庫県内の地場産業である神戸のケミカルシューズや豊岡かばんとの産地間連携
- ・ ひょうご皮革総合フェアをたつの市皮革まつりと合同開催

《団体（問い合わせ先）の状況》

団体(組合)の名称	所在地	電話	FAX
兵庫県皮革産業協同組合 連合会	〒670-0964 姫路市豊沢町129番地 あさひビル4階	079 (285) 3872	079 (285) 3268

生産工程図



<その他の鞣製法>

- (1) 油鞣法…鱈肝油または海豹油等を用いて鞣す方法でシューム革とも呼ばれる。鹿または山羊、羊の皮を油鞣したものは、薄毛の黄革で手袋やガラス拭として使用される。
- (2) 明礬鞣法…加里明礬等で鞣すと白色の柔軟な革になる。厚物は白靴底革、薄物は袋物装飾用革に使用される。
- (3) 混合鞣法…クローム鞣とタンニン鞣、或いはタンニン鞣と明礬鞣等、2種類の鞣を同一の皮革に行う加工法。両方の特徴を併有し、靴底革、馬具、紡績用革、鞆等に使用される。

※「原皮」とは鞣されていない生の皮を指し、鞣して加工されたものを「革」と呼ぶ。